

ふくろだいせき 6 袋田遺跡

所在地：勝山市本町2・3丁目

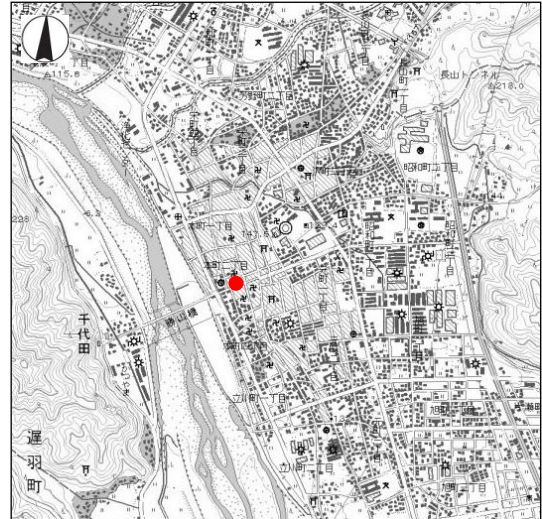
調査原因：一級河川大蓮寺川改修事業

調査期間：令和3年4月～7月

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：430 m² (5区 200 m²、6区 230 m²)

時代：弥生・古墳時代・古代・中世・近世



位置図 (S=1/50,000)

遺跡について 九頭竜川右岸の河岸段丘上に所在する複合遺跡です。令和元年度より調査を行っており、令和3年度は元禄線開通直前まで現地に存続していた慶恵寺跡から河原町通りまでが調査範囲です。調査では、慶恵寺に伴うとみられる井戸、石積遺構、石組溝のほか、近世を通じて城下町の境界を成していたと考えられる段丘崖などが見つかりました。特に、袋田村の比定地で室町時代の鍛冶関連遺構が確認された意義は非常に大きく、地域の歴史を解明する上で貴重な発見となりました。

主な遺構 5区では2つの生活面を確認しました。中近世の生活面では石組井戸3基、石積遺構2基のほか、15～16世紀の鍛冶関連遺構を検出しました。鍛冶関連遺構は工房と考えられる掘り込みと排滓坑1基で、掘り込みの周囲には東西5基、南北4基の柱穴が並び、床面には炉の基礎と考えられる堆積がみられました。工房に近接する排滓坑からは多数の椀形滓が出土しました。なお、平泉寺賢聖院院領目録には袋田村から鍬1挺が租税として納められたとの記載があり、今回検出された遺構との関連が注目されます。また、古代以前の生活面では、竪穴住居1棟を確認しました。

6区では、慶恵寺の敷地境を表すとみられる石組溝や、石積遺構2基などを検出しました。石組溝の約6～7m西側では、元禄16(1703)年絵図に描かれている尊光寺裏の段丘崖に合致すると考えられる落ち込みを確認しました。

主な遺物 かわらけや青磁・染付・唐津・瀬戸美濃・越前焼など中近世の陶磁器が大半ですが、平安時代の須恵器や古墳時代の土師器、弥生土器もわずかに出土しました。また多数の鉄滓、金属製品、笏谷石製品や角間石もみられました。(藤本聡子)



5区 石積遺構 2 (南から)



5区 石組井戸 3 (北から)



5区 石積遺構 1・石組井戸 1 (北から)



6区 石積遺構 2 (北から)



6区 段丘崖完掘状況 (北から)



5区 石組井戸 2 (南から)



5区 鍛冶関連遺構 (南から)



5区 排滓坑 (南から)



6区 石組溝 (南から)



6区 石積遺構 1 (西から)